

## 島大、県立大学生 造り酒屋を見学

松江

地域の歴史や文化を教育に生かす島根、鳥取両県5大学の連携プログラムで、島根県立大学と島根大学の学生6人がこのほど、松江市南田町の造り酒屋の酒蔵を見学し、日本酒の製造工程を学んだ。

県内の造り酒屋や地酒について学んでもらおうと県

立大と県酒造組合(会長・米田則雄米田酒造社長)が連携し「お酒の講座」と銘打って企画。県立大の学生5人と島根大の学生1人が参加した。

米田社長が、日本酒の原料である水や米の品質が、酒造りにとっては極めて重要であることなどを紹介。学生たちは同社社員から製造工程について聞きながら、新酒の香りを楽しんだり、試飲したりして地酒の



魅力に触れた。

島根大総合理工学部1

日本酒の香りを楽しむ学生たち

年、朝日啓太さん(20)は「酒造りの時期や製造工程など初めて知ることばかりだった」と話した。

参加者は酒蔵見学に先立ち、同市浜乃木7丁目の県立大短期大学部松江キャンパスで松江税務署職員から酒の歴史や酒税の種類、税金と財政の関係などの説明を受けた。



公開講座「出雲文化学」のチラシ

島根大学公開講座

出雲文化学  
11日から開講

座学や課外バスツアーも

古代出雲や出雲大社の選  
宮、出雲の文化を学ぶ島根  
大学の公開講座「出雲文化  
学」が11日、松江市西川津  
町の島根大学松江キャン  
パスで始まる。教壇に立  
つのは出雲大社の権宮司  
や同大の教授、専門研究員  
ら。同大の「市民パスポ  
ート」会員になれば受講でき  
る。

7月下旬までに座学(90

分)を15回、課外バスツ  
アを4回の合わせて19回開  
講。座学のテーマと講師は  
毎回変わり、「出雲大社平  
成遷宮が始まりから今」

(出雲大社・千家和比古権  
宮司)▽「小泉八雲がみた  
出雲文化」(島根県立大・  
小泉凡教授)▽「出雲弁と  
出雲文化」(荒神谷博物館  
・藤岡大拙館長)などを  
計画している。

課外バスツアーは、座学  
受講者が対象。和鋼博物館  
や松江城、出雲大社、奥出  
雲たたらと刀剣館など、県  
内各地に出向く。

市民パスポートは年会費  
5千円で、公開講座の受講  
や大学図書館の利用ができ  
る。今回の講座の定員は各  
回100人。事前申し込み  
は不要。

問い合わせは島根大学教  
育・学生支援部、電話08  
52033000、60503。

平成 26 年 4 月 8 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報

島根県立大松江

4 年 制 化 県 に 要 望 へ

健康栄養学科 出雲移転も

島根県立大は10日、松江  
市浜乃木7丁目の短期大学  
部(松江キャンパス)の  
「今後の在り方」をめぐる  
検討結果を試案として公表  
した。3学科全てを4年制  
化し、健康栄養学科は出雲  
市西林木町の出雲キャンパ  
スへ移転するのが望ましい  
としている。県民から募る  
意見を添え、夏ごろまでに  
大学設置団体の県に検討を  
要望する。

短期大学部は男女共学の  
2年制で現在、健康栄養学  
科(定員40人)、保育学科  
(同50人)、総合文化学科  
(同140人)がある。  
「在り方」の検討は入試受  
験者の減少や、公立短大が  
4年制に移行する全国的な  
傾向を踏まえ、昨年4月か

ら大学内で進めてきた。  
試案で打ち出した全学科  
4年制化は、管理栄養士な  
ど社会的需要が多い資格取  
得を可能にし、大学受験者  
の県外流出抑制にもつなげ  
るのが主な狙い。「短大の  
まま」「専攻科新設」「一  
部4年制化」と合わせた四  
つの検討パターンの中から  
「最適」と判断した。

また、健康栄養学科につ  
いて、保健・医療連携によ  
る研究、教育の充実を図る  
ため、出雲キャンパスの看  
護学部と統合し、「看護栄  
養学部(仮称)」として同  
キャンパスに配置する案を  
「望ましい」と位置付ける  
一方、「健康栄養学部(同)  
として松江キャンパスに残  
す案も試案に含めた。

試案は同大ホームページ  
のほか松江、出雲、浜田各  
キャンパスなどで公開し、  
5月9日まで県民の意見を  
募る。  
浜田市野原町の同大浜田  
キャンパスで記者会見した  
本田雄一理事長(学長)は  
「3キャンパスそれぞれが  
社会から高く評価され、多  
くの志願者を集められるよ  
うにしたい」と話し、要望  
に添った方針を県が早期に  
決定することを期待した。

平成 26 年 4 月 11 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報

# 小泉八雲 作品と精神学ぶ

島根県と松江市、明治大学による連携講座「小泉八雲の面影―日本人の源郷 松江、そして島根―」が12日、東京都千代田区の同大学駿河台キャンパスで始まった。没後110年を迎えた文豪・小泉八雲（ラフカディオ・ハーン、1850～1904年）の作品や精神をさまざまな角度から学ぶことで、島根や松江の魅力を知ってもらおうのが目的。12月まで、前後期を合わせて計10回開く。

小泉八雲は1890（明治23）年に英語教師として松江市に赴任し、約1年2カ月間滞在。美しい自然と町のたたずまいや暮らす人々の姿を通して知り、感じた日本や界を紹介した。

## 明治大（東京）講座スタート 松江市、島根県と連携



小泉八雲をテーマにした連携講座を受講する参加者―東京都千代田区、明治大学駿河台キャンパス

初講座には、首都圏在住の約80人が出席。金山秋男・明治大法文学部教授が八雲の作品を切り口に、日本と欧米の死生観や宗教観の違いなどを交えて講義を展開した。同教授は八雲の著書「神々の国の首都」の中から、聞こえてくる音で松江の町のたたずまいを描写した一節を読み上げて紹介。「われわれもハーンのように、松江や出雲の風景を感じ取れる感受性を持つことが大事なポイント」と述べた。今後の講師は、作家の山田太一氏や八雲のひ孫の小泉凡氏（島根県立大短期大学部教授）らが予定されている。

平成 26年 4月 13日 付け ・ 山陰中央新報

松江大立大  
島根県立大  
4年制

# 来年度早期に方針

## 県準備期間に最低3年

島根県の楢野弘和総務部長は16日の県議会総務委員会で、同県立大が試案で打ち出した短期大学部松江キャンパスの4年制化について、2015年度の早い段階で県の考えを明らかにする方針を示した。

試案は、松江キャンパスの健康栄養学科、保育学科、総合文化学科の3学科を4年制化し、健康栄養学科は出雲キャンパス（出雲市西林木町）に移転している大学の運営交付金が最大2億7千万円程度、軽減されるといふ。

楢野部長は「県議会などさまざまな意見を聞く機会が必要だ」と述べ、教員確保の見通しや県財政の状況を踏まえた上で、判断するとした。

また、4年制化を決めた場合の準備期間は、文部科学省への認可申請などに時間がかかるとして「県の方針が出た後、最低3年は必要」と述べた。

平成 26年 4月 17日 付け ・ 山陰中央新報

## 島根県立大4年制化 外部組織設立し議論 溝口知事が方針

は17日の定例会見で、同県立大短期大学部松江キャンパスの4年制化について、有識者らでつくる外部の検討組織を立ち上げ、意見を聴いた上で可否を判断する方針を明らかにした。

溝口知事は、健康栄養学科、保育学科、総合文化学科の3学科を4年制化し、このうち健康栄養学科を出雲キャンパスへ統合するとして県立大の試案について「今どうする」という考えは、整理していない」とした。

その上で、今後の検討方法に関して「県立大から提出される案をベースに、委員会が懇談会を設けて検討してもらい、対応したい」と述べ、2015年度早期とする県の判断の参考にする考えを示した。

平成 26 年 4 月 18 日 付け ・ 山陰中央新報

## 被災地現状 松江で報告



大学敷地内での地震発生時の対応策を話し合う参加者

### 「きっかけバス」参加学生 震災への考え深める

全国47都道府県から学生を東日本大震災の被災地へ送るボランティアバスツアー「きっかけバス47」に参加した学生の報告会が20日、松江市西川津町の島根大学学生会館で開かれた。学生による被災地の現状の発表や、来場者を交えたグループワークがあり、約20人が震災への考えを深めた。

きっかけバスは公益社団法人「助け合いジャパン」が母体となり、全国の学生に参加を呼び掛けた。島根県からは2月中旬、島根大

県立大の学生40人が参加した。報告会では、ツアーに参加した学生でつくる「きっかけバスしまね」が主催。学生たちは岩手、宮城、福島3県で体験した、遺品の捜索作業や、被災者との交流について発表した。

発表した学生は作業にあたった陸前高田市で撮影した写真を見せながら、遺品などの捜索が終わっていない地域が数多くあることを報告。「復興は全然進んでいなかった」と率直な感想を述べ、支援の継続を訴えた。

発表後に来場者とともに行ったグループワークでは、会場となった島根大学敷地での地震被災を想定し、避難方法などを4組に分かれて話し合った。火災発生や、薬品による事故など不測の事態も考慮しながら、参加者で相談して対応策を導き出した。

平成 26 年 4 月 21 日 付け ・ 山陰中央新報

# 島根県立大松江4年制化



4年制化の試案を公表する島根県立大の本田雄一理事長（中央）、山下由紀恵短期大学部副学長（右）ら—10日、浜田市野原町、同大浜田キャンパス

# 志願者減少に危機感

島根県立大(浜田市野原町、本田雄一理事長)が、短期大学部(松江キャンパス、松江市浜乃木7丁目)の4年制化を設置者の県に要望することを決めた。4年制化は、前身の県立島根女子短大時代から20年来くすぶっていた課題。入学志願者減少への危機感を強める中、専門機関から卒業要件単位数の是正を迫られたことが契機となり、大学側が意を決した。(西部本社報道部・西憲和)

大学の「試案」として10日に公表した4年制化は、短期大学部が2012年度にまとめた検討結果がベース。同学部の山下由紀恵副学長は「その時点で4年制化を求めた」と説明する。

根底には現状への危機感と周囲の動きに対する焦りがあった。受験生の「4年制志向」の強まりもあり、短期大学部3学科の受験倍率は漸減。12年度は1.29倍にとどまった。

一方、全国の1996年に63校あった全国の公立短大は次々と4年制に移行し、2012年には22校に減少した。決定打になったのが、公益財団法人大学基準協会(東京)から11年度に受けた認証評価。健康栄養、保育の両学科について「卒業に必要な単位数が多く、カリキュラムが過密」として見直しを求められたのだ。

同学部は、卒業と同時に栄



金を抑制できるかが焦点とな

果を基に、昨年4月から試案を練った大学内部の法人改革検討委員会では、大学予算の約6割を占める県の運営交付

養士、保育士の資格を取得できるカリキュラムを特長と自負していただけに、山下副学長は「在り方そのものを見直すきっかけになった」と振り返る。

「福音」になったのが、公立大の管理経費として国が措置する地方交付税の新算定。4年制大の学部区分で13年度に新設された「人文科学系」

県交付金軽減の試算

一方、短期大学部の検討結果

短期大学部の4年制化試案

2年制の健康栄養、保育、総合文化の3学科全てを4年制にするのが柱。学部は▽健康栄養学部を看護学部がある出雲キャンパスに移して「看

「保健系」は学生1人当たりの算定単価が高く、これを適用すれば、毎年の県負担を最も

「健康系」は学生1人当たりの算定単価が高く、これを適用すれば、毎年の県負担を最も

「望ましい」としている。

## 卒業単位の是正契機に

大2億7400万円軽減できる試算が明らかになった。検討委では当初、「4年制化に試案を絞るのは困難」との見方もあったが、委員長を務める小池律雄副理事長は「昨秋、運営交付金の試算が出た段階で、4年制化を打ち出す見通しが立った」と明かす。

結論までには曲折も

とはいえ、要望に添う決定を県がすんなりと下すかは予断を許さない。

4年制化で県が負担する校舎増築などの施設整備費は、大学の推定で40億円に上る。また、一定の進学ニーズがある短大を県内からなくしていくのか、と議論になるのは必至だ。

さらに試案には健康栄養学科の出雲キャンパス(出雲市西林木町)への移転も盛り込んでおり、県に対して過去に4年制化を求めていた経緯もある松江市と、出雲市との間で綱引きが起きかねない。

県への正式な要望は夏ごろになる見通し。本田理事長は「可及的速やかに決定してほしい」と望み、県も15年度の早い段階で方針を示すとしているが、結論までには曲折も予想される。